

「本当にやりたいこと」

◆JICA海外協力隊訓練生インタビュー◆

今回のお相手



テラカド タカネ

お名前：寺門 香音 さん

派遣国：マラウイ共和国

職 種：小学校教育

隊 次：2021年度1次隊



—JICA海外協力隊に参加した経緯を教えてください。

○小学6年生の時に、職業図鑑を見ていて協力隊を知りました。そこからずっと参加してみたいと思っていましたが、海外に行ったこともなかったもので、社会人になってからスタディーツアーに参加して本当に発展途上国で2年間過ごせるのか、本当にやりたいことなのかを確認しました。そのなかで児童養護施設、スラム街の学校などを訪問し、目の前で途上国の子どもたちの生活を見たことで、私が何か教えられることはないかと思い、協力隊参加の気持ちが強くなり応募しました。

—応募時に不安だったことは何ですか？

○私の周りに協力隊経験者があまりおらず、説明会に参加する機会もなかったもので、自分で情報を調べるしかなく不安が多かったです。そして、青年海外協力隊の活動が周りに知られておらず、理解を得ることが難しかったです。

「途上国になんでいくの」「どうしていきたくのかわからない」という声が多く、その人たちに説明することが大変でした。私が、やりたい強い意志を伝えることで、今では応援してくれています！

—コロナの影響で派遣が延期され、連絡がくるまでどうでしたか？

○コロナ禍で行きたい思いが強まりました。協力隊を目標にして仕事を頑張ってきた分、悩んだというよりも早くいきたいという気持ちになりました！

—駒ヶ根訓練所での訓練生活はどうですか？

○訓練所の中には、途上国に行ってなにか伝えたい思いを持った人がいるので、途上国への思いや海外の話ができるのがすごく楽しいです。皆さんバックグラウンド、特技など違うので、全員からいろんなものを吸収しようと思っています。語学は、英語が常にある環境にあることがうれしいです。語彙も増えて、英語学習者と英語で会話するようになりました。

—任国での活動を教えてください。

○小学校巡回でエクスプレッシブアーツということで情操教育のサポートを行います。任地では、前任の人が運動会やコンクールを開いていたので私もやりたいと思っています。それとダンスが好きなので、子どもたちと一緒に踊れる機会を作れたらいいなと思っています。休職参加なので、所属学校にむけて定期通信を配信しようと思っています。時差もありますが、日本の子どもとマラウイの子どもをオンラインでつなげ、お互いの文化を教えあってほしいと思っています。帰国後は、学校に戻って社会還元ということで私の経験を伝えたり、協力隊の経験を活かしたりしていきたいです。

